

＼ 心豊かなシニアライフを応援します！ ＼

ゆうゆう倶楽部



民友ゆうゆう倶楽部

《問い合わせ》TEL:024-523-1

(平日・午前10時～午後5時)



会員特典

民友ゆうゆう
会員募

会員数(7月17日現在) **22,21**

企画・制作 福島民友新聞社営業課

暮らしの健康相談

中高齢者の尿のトラブル——過活動膀胱——

過活動膀胱は、尿意切迫感(突然、尿意をもよおしトイレに駆けこむ)を主要な症状とする病気です。頻尿(尿の回数が多くトイレが近い)、夜間頻尿(夜中に何度もトイレに起きる)、切迫性尿失禁(尿意切迫感とともに尿がもれる)を伴うことが多いとされます。

2024年に日本排尿機能学会が行った調査によると、日本人の20歳以上の11.9%、40歳以上の13.8%に認められる病気です。病因は、神経が原因によるものと、神経が原因でないものに大きく

分類されます。

神経が原因のものとしては、脳が原因の場合(脳出血、脳梗塞やパーキンソン病など)、脊髄が原因の場合(脊髄損傷、脊髄管狭窄症、椎間板ヘルニア、多発性硬化症など)、糖尿病などがあります。神経が原因でないものとしては、動脈硬化や生活習慣病、加齢、女性ホルモンの低下、骨盤臓器脱、前立腺肥大症などがあります。膀胱がん、膀胱結石、膀胱炎でも、過活動膀胱と同じような症状がでてくる場合があります。注意が必要です。治療は、行動療法

や薬物療法が中心となります。

ためらわず受診を

過活動膀胱の特徴として、症状があるにもかかわらず、病院への受診率が極めて低い(男性20.3%、女性9.9%)ことです。年だからしょうがないとか、特に女性の場合は、病院に行くのが恥ずかしいといったことが理由のようです。病院に受診することをためらわずに、ぜひ過活動膀胱の症状が気になる方は、泌尿器科に受診することをお勧めします。



福島県立医科大学泌尿器科学講座 小島 祥敬 先生
岐阜県各務原市出身。名古屋市立大学医学部卒業。2008(平成20)年米国ペンシルバニア大学留学。2012(平成24)年より福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座教授。日本泌尿器科学会指導医・専門医。